ニッコー 創立60周年

電気炉設備設計から据え付け・メンテナンスまで行う製鉄エンジニアリング

電気炉設備の設計から据え付け・メンテナンスまで行う製鉄エンジニアリング会社、ニッコー（本社・神戸市中央区）はきょう26日、創立60周年を迎えた。28日には社員やその家族、OB・OGなど約80人が集まり、ANAクラウンプラザホテル神戸で式典を開催する。創立から今日に至るまでの同社の軌跡を振り返る。また、直近の取り組みや次世代に向けた事業展開などについて有働航司社長に聞いた。（綾部　翔悟）

先人のDNA、脈々と継承

「クイック対応、シンプルな機構、高品質」を貫く

バーナーメーカーから総合製鋼設備メーカーへ

ニッコーは有働社長の祖父で、八幡製鉄（現日本製鉄）、大阪製鋼（現合同製鉄）、日伸製鋼（後の東伸製鋼、現JFE条鋼）などに勤務してきた有働功氏が、1966年に製鋼工場のメンテナンス事業会社、日本鉱産を兵庫県姫路市飾磨区に設立したのが始まり。当初は日伸製鋼姫路工場でのメンテナンス下請け作業を手掛けながら、熱焼機器（商品名＝ジェットバーナー）の開発に取り組み、製鋼技術コンサルタント業務も開始した。

日本鉱産は製鋼用資材（合金鉄）を主に扱っていたが、ジェットバーナーや集塵装置といった製鋼設備などの納入が増え、社名の「鉱業」が事業実態にそぐわなくなったため、77年2月に現社名の「ニッコー」に変更した。その後は2回のオイルショックで電力コストが上昇したため、省エネ・ハイテク化がクローズアップされる中、製鋼業界に従事する同社は省エネ・省力化技術に特化したジェットバーナーシステムを販売。この過程では、同システムの開発に携わった社員、功社長の元部下、電気炉担当エンジニアなど、3人の電気炉設備などに精通した技術者が入社したことを機に業容を拡大した。

スクラップバケット＆レードル

4月にクレーンを増設する姫路製造所

鉄鋼業界でプレゼンス高める

それまで培ってきた知見・ノウハウに加えて、3人のエキスパートの知識と技術により、製鋼設備における技術レベルが大幅に向上・拡大し、電気炉付帯設備（バーナー、集塵装置など）から電気炉・取鍋製錬炉まで設計・製作できるようになった。

バーナーメーカーから電気炉設備メーカー、さらには総合製鋼設備メーカーと飛躍を遂げ、その後は韓国や台湾メーカーなどからの新規電気炉の受注にもつながっている。

着実に実績積み重ねる

バブル崩壊後は、製鋼業界における需要低迷や販価下落で製鋼メーカーが厳しい経営状況となり、ニッコーも業績に陰りが見え始める中、96年4月に功社長の長男の英司副社長が社長に就任。英司新社長は「電炉製鋼技術のパイオニアたるべし」との決意を表明し、社是「クイック対応、シンプルな機構、高品質」を掲げた。

不況による業績悪化で、人員整理や加西工場の売却および海外拠点の整理といった経営資源の選択と集中を推し進めながら、電気炉設備および付帯設備を受注するなど実績を積み重ねていく。受注に関しては納期対応が評価されることも多く、功社長の口癖でもあった「ニッコーは製鋼工場のドクターたるべし」という、常にユーザーに新技術のネタを紹介するとともに、納期最優先で絶対に遅延しないという「ニッコーのDNA」が脈々と受け継がれていることを示している。

リーマンショック以降、英司社長は「会社を存続させる、利益は社員に還元する」との決意を表明し、社内体制の刷新、福利厚生の充実や社員待遇改善に積極的に取り組んだ。同時並行で、電気炉やその付帯設備の開発・製造、コンサルティングやメンテナンスを含め、トータルにサービスを提供する総合エンジニア企業を目指し、2007年5月には現在の姫路製造所を新工場として開設した。

そして、国内製鋼メーカーを中心に納入実績を増やしながら、メーカーとの共同技術開発（還元スラグからの人工石材の成分分析など）も進め、企業としてさらなる成長を目指している。24年4月に英司社長から航司取締役に社長のバトンが渡った。新たな経営体制となり、60年の節目を迎えたニッコーはこれまでの軌跡で先人たちが歩み、そして蓄積した技術・設計力・ノウハウを昇華し、製鋼業界でのプレゼンスを高めていく方針だ。

国内製鋼メーカー中心に豊富な納入実績

副原料投入装置㊧と集塵装置

現状と今後の展望

有働 航司社長に聞く

――まずは60周年を迎え、率直な感想を。

「これまで当社を支えてくださった取引先、OB・OG、そして現在の社員がいて、今日を迎えることができたことは非常にうれしく思っている。全ての方々に感謝したい」

「2024年4月、父であり前社長の英司会長からバトンを引き継ぎ、3代目社長に就任した。当社に入社したのが2013年。16年に50周年を迎えてから10年がたつ。あっという間に10年が過ぎたという印象を持っている。くしくも、創立記念日が私の誕生日と同じことも何かしらの縁を感じている」

――直近の10年でどのような変化がありましたか。

「ここ10年でカーボンニュートラルの実現やSDGsなど、環境への関心が非常に高まり、鉄鋼業界では電炉に注目が集まっている。国内高炉メーカーは電炉の新設や導入計画を進めており、電炉へのシフトが見られる。また、既存の電炉メーカーも更新や改造などに積極的で、当社の事業に追い風が吹いていると考えている」

「逆に、これまでと変わらないことは、会長の考えであり、立地条件も強みの一つだ。関西圏だけでなく、国内製鋼メーカーの約95%に当社の設備が納入されており、各社の設備の特徴も把握している。各社各様のニーズに沿った設備の設計力は強みであり、磨き続けていきたい」

――企業としてさらなる成長を遂げるために考えることとは。

「社内については10年間で培ってきた知見やメンテナンスまでトータルでサポートしている」

「環境改善に結び付くような集塵装置など、地球環境に配慮した事業を心掛け、『電炉本体だけでなく、そして当社の強みを大切にしながら、次の70周年を迎えたい』という精神を持ちながら、常に技術をレベルアップさせながら、新技術・新商品を提供していきたい。そして今までの積み重ねが大事であり、社員を大切にしながら、次の70周年を迎えたい」

「当社の姫路製造所の周辺には電炉メーカーが集積しており、立地条件も強みの一つだ。関西圏だけでなく、国内製鋼メーカーの約95%に当社の設備が納入されており、各社の設備の特徴も把握している。各社各様のニーズに沿った設備の設計力は強みであり、磨き続けていきたい」

――企業としてさらなる成長を遂げるために考えることとは。

「最初に設計から製造まで手掛けたバーナーは40～50年たつが、現在でも一定のニーズがある。ユーザーと対話を重ね、既存商品をブラッシュアップさせながら、新技術・新商品を提供していきたい。そのためにも設計力をさらに高めながら企業としてより一層成長していきたい」

「『従業員数は観光バス1台』という会長の考えの下、今後も少数精鋭で事業を運営していきたい。社長に就任して約2年がたち、私の一言一言が社員のモチベーションに関わることを実感している。全社員としっかり対話をしながら、経営のかじを取っていきたい。そして今までの積み重ねが大事であり、社員を大切にしながら、次の70周年を迎えたい」

CN実現・SDGsが事業の追い風に

製鋼業界発展に寄与、設計力に磨き

おかげさまで創立60周年

当社は本日2026年3月26日をもちまして、創立60周年という大きな節目を迎えることができました。
これもひとえにお客様をはじめ、お取引先の皆様、地域社会の皆様のご支援の賜物と心より感謝申し上げます。
創立以来、製鋼技術の向上と品質の追求に努め、業界の発展に貢献できるよう歩んでまいりました。
これまでの歩みを礎に、さらなる価値の創造と社会への貢献に努めてまいります。
これからも変わらぬ信頼をいただける企業であり続けられるよう挑戦を続けていきたいと考えております。
今後ともご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

株式会社 ニッコー　代表取締役社長　有働 航司

NIKKO
KOBE JAPAN

■ 神戸本社　兵庫県神戸市中央区布引町２丁目４番10号　■ 姫路製造所　兵庫県姫路市飾磨区今在家1076番２号